



DIOジャパンが山目に市内初のコールセンター設置

25.May 2012



株式会社DIOジャパン(本社愛媛県松山市、小島り子社長)と市は5月25日、市役所で共同記者会見を開き、市内山目のササキビル2階にコールセンターを設立すると発表しました。

会見には同社役員と市の幹部職員ら12人が出席。勝部修市長は「当市への立地を歓迎します。雇用創出はもちろん、地域の人材レベルの向上にもつながると思う」とあいさつ。小島社長は「若者や女性の雇用に貢献できると思う。岩手

人は、真面目な人が多くイメージが良い」と抱負を述べました。

同社のコールセンター開設は、盛岡市、洋野町、奥州市に続き県内4カ所目。ITを駆使した地場産業の振興などを事業目標に掲げています。東日本大震災で失職した人を中心に約100人の新規雇用を予定しており、スタッフ(オペレータ)の募集を開始しています。現在、ササキビルのフロア改修、スタッフの研修などを進めており、来年度から本格業務をスタートする。



被災者に宮城のテレビ放送提供し、東北総合通信局長表彰

1.June 2012



市はこのほど、情報通信の発展に貢献した功績で「東北総合通信局長表彰」を受賞しました。東日本大震災の被災者支援の一環として、市内の仮設住宅などで避難生活を送る宮城県の被災者に、同県のテレビ放送が視聴できるようにしたもので、災害時の情報通信設備の活用が高い評価を受けました。

千厩・室根両町の仮設住宅と藤沢町の雇用促進住宅には多くの被災者が入居しています。勝部修市長は、仮設住宅や雇用促進住宅を訪問した際に、「宮城県のテレビ放送を見たい」との要望を受けていました。

そこで市は、千厩中継局(三島山)にデジタル波受信アンテナを整備。宮城県

内の各放送事業者から再送信の同意を得て、地域イントラネット基盤整備事業で敷設した光ファイバー回線を使って千厩・室根の両町仮設住宅(昨年11月)と藤沢町の雇用促進住宅(今年3月)に受信電波の送信を開始。3つの住宅に暮らす避難者は、宮城県のローカル番組が視聴できるようになりました。

表彰式は6月1日、仙台市の江陽ランドホテルで行われ、武井俊幸東北総合通信長から勝部市長に表彰状が手渡されました。勝部市長は「私たちにできることを常に考え、支援してきた。職員には身内が被災したと思って行動するよう話している。取り組みが評価されてうれしい」と話していました。

モニターからリニューアル後の広報誌に厳しい意見

23.May 2012



「24年度第1回広報モニター会議」は5月23日、市役所で開かれ、市から委嘱されたモニターが広報「いのせき」I-Styleと「市ホームページ」について意見を述べました。

午前10時から行われた会議には、モニター6人と市政情報課職員5人が出席。このうち、今年1月に全面リニューアルした広報「いのせき」I-Styleについては▶以前と比べ、読みやすくなった▶写真が増え、きれいで見やすい▶内容が充実。全体構成やバランス感覚

も良いなど評価する意見が寄せられました。

一方で▶タイトルは日本語で表記すべき▶表紙に一貫性がない▶料理コーナーがなくなり残念▶「撮っておきいちのせき」の撮影データは不要▶職員は広報の使命を理解していない一などの厳しい意見も出されました。

市は今後も、寄せられた意見を参考にしながら、市民の役に立つ広報誌、読者に必要とされる広報誌を目指します。

7

6 5 4

家具工房武田
〒029-3521
藤沢町保呂羽字上野平148-5
Tel 0191-63-5203
Fax 0191-48-3006
ホームページhttp://www.k-takeda.jp/

家具職人 武田憲一郎さん

機能性と芸術性が融合 家族と共に時を刻む家具

1 静かでゆったりと時間が流れる工房には、材料を削る音だけが響く／2 彫刻は最も得意とする手業。数十種類ののみを使って繊細な曲線を作り出す／3 四季折々の風景を楽しむことができる湖畔の工房／4 カンナを使った「削る」作業／5 のみを使った「彫る」作業／6 木工旋盤を使った「ろくろ」作業／7 機能性と芸術性が融合した武田さんの家具の特徴は、シンプルで美しいフォルム

藤沢町のほろわ湖畔に武田憲一郎さん(38)の工房がある。風、光、水を体感できる保呂羽に「家具工房武田」を開いたのは08年。「スローに、心豊かに」をモットーに、世代を超えて愛され、親しまれる家具を作っている。

小さい頃からものづくりが好きだった。一関一高卒業後、石川県の金沢美術芸大で造形を学び、さらに長野県の上松技術専門学校で木工技術を習得した。97年に帰郷、家業を手伝いながら独立の準備を進めた。

商品はオーダーメイド。依頼者の要望をじっくり聞いてデザインする。スケッチに始まり、組み立てをシミュレーションしながら図面を引く。「確かなイメージを伝えたい」とミニチュアを作ることも。全ては、家族みんなに末永く使ってもらいたいから。

材料は、可能な限り地元産を使う。地域資源の循環を第一に考え、環境にやさしい生産活動を展開する。

「繊細で美しい木は、使い込むほどに味わいが増す」と言う武田さん。木本来のやさしさを生かすため、くぎや金具をほとんど使わない「組み手技法」や「ほぞ組み」などで組み立てる。手業から生み出される滑らかなラインと、きめ細やかな仕上げは匠の技。機能性と芸術性が融合した家具はシンプルで美しく、気品さえ漂う贅を尽くした逸品。「日常使いするものだからこそ、デザインにもこだわりたい」と心を込める。

6月に結婚。家族と共に時を刻む家具を作り続けてきた職人は人生の伴侶を得た。妻暁子さんと自ら手掛けたテーブルを囲む日も近い。



PROFILE
武田憲一郎

1974年神奈川県生まれ。96年金沢美術芸大卒。97年長野県上松技術専門学校卒。同年個展「木彫+ドローイング展」開催。2000年平泉町に工房開設。02年個展「椅子(いす)展」開催。08年藤沢町に工房開設